

わかき学級 生活単元学習・総合的な学習の時間 学習活動案

活動グループ名	対象	授業者
「鳥の家作ろう」	8名	
「ターザンラン」	8名	
「ピカベーチ」	7名	
「フラベジきのこ」	8名	
「ファール昆虫記」	9名	

1 単元名:「ひみつきちプロジェクト」

- A:「鳥の家つくろう」
- B:「ターザンラン」
- C:「ピカベーチ」
- D:「フラベジきのこ」
- E:「ファール昆虫記」

2 単元の目標(単元を通して子どもたちが学ぶであろうことから)

わかき学級の中庭を楽しく使える場所に変えるために、5つのグループに分かれて繰り返し試作する活動を通して、子ども一人ひとりが「やってみたい」を実現できることの面白さや、そのために、いろいろな方法があることを理解し、課題解決のためにグループ内で自分にできることを考えるとともに、より安全で魅力的な場所になるよう協働して活動し、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとすることができる。

3 育成をめざす資質・能力(育つと考えられる資質・能力)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。	実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする。
①中庭をみんなが楽しく使える場所にするために、いろいろな方法があることを理解している。 ②活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的を明確にして活動方法を考えたり、適切な方法で調べたりすることができる。 ③材料を集めることや現状への理解は、繰り返しの試作や、他教科と結び付けての探究的学びを重ねた成果であると気付いている。	①各グループが目的をもって活動を行うことから、課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②中庭をみんなが楽しく使える場所にするために、必要な情報や手段を選択して収集している。 ③収集した情報を、取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。 ④中庭での楽しみ方を、伝える相手や目的に応じて考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①自己の取り組みを振り返ることを通して、楽しい中庭を作ろうと探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ②楽しい中庭を作るために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取り組もうとしている。 ③課題解決に向けた自分の取り組みや状況を振り返り、楽しい中庭を作るためにできることを積極的に考え、粘り強く取り組もうとしている。

4 研究の手立て

○子ども主体の学習になるための手立て

(1)必然性のある材

4月、昨年度までの総合的な学習の時間の振り返りを行った。うどんを作ることができるようになったこと、作ったうどんを家庭で食べてもらうことができたことなど、子どもたちは達成感を得ることができた。うどんの出汁にもこだわり、各グループでうどんの達人になるために意欲的に活動することができた。「うどんの達人になることができたか。」という質問には9割以上の子どもが「できた。」と答えていた。

昨年度の経験をもとに、今年度何について探究していくかを子どもたちと相談した。その結果、わかき学級にある中庭を楽しい場所にしたいという意見が多く出てきた。楽しい場所にするためには、どうしたらよいか話し合った。そして、子どもの願いのもと、①鳥の家作り②アスレチック作り③畑・きのこ作り④ベンチ・テーブル・椅子作り⑤虫の家作りの5グループに分かれて活動することにした。鳥の家、アスレチック作りは、廃棄木材、廃材を使用することで環境保全にもつながる材である。畑・きのこ作りは、今までの栽培経験を生かすことができる。ベンチ・テーブル、椅子作りは、繰り返し作る中で試行錯誤し、よりよい物を作り上げていくことができる。虫の家作りは、ビオトープを作る中で生態系についても学ぶことができる。中庭を材として、学びの連続性を子どもが感じ、「中庭をみんなが楽しく使える場所にする。」ことを通して昨年を越える達成感と役立ち感を得られるように支援していく。

「ひみつきちプロジェクト」には、子どもたちのワクワク・ドキドキするような要素がたくさん詰まっている。子ども一人ひとりの幅広い「やってみよう」を実現できる機会として、魅力的な活動であると考え。また、各グループの活動には工夫できる要素がたくさんある。完成を想定して、「中庭が出来たら、わかきのみんなでティーパーティーをしたい。」「生活単元で作ったおにぎりを外で食べたいね。」などと材への興味関心が高まってきている。他グループの活動を互いに見合い褒め合うなど、他者への意識が高まっていくことも想定ができる。活動を進める中でのひらめきや、思いもよらないアイデアを大切にしながら、活動が日々魅力的なものになることを期待している。

(2)子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

材を「中庭」に決定し、5つのグループに分かれた後、それぞれの担当で材について調べ、追究している。教師も試作を行うことで、子どものつまづきや課題を感じる場面を想定した。どのような材料が活用できるのか、子どもたちはどんな物を作りたいと思うだろうかと考え試行錯誤している。児童の活動と同時に教師も共に探究を行い、材の魅力を感じていく。

子どもたちの話し合いの中では、想いが膨らみ実現することが難しいような大規模なアイデアが出ることもある。その際には教師が実施期間や活動する場所を子どもに分かりやすい形で具体的に伝えるようにし、話し合いがより有意義に、円滑に行えるよう支援していく。ベンチやアスレチックなどの制作物を作る際には、安全に活動ができるように間隔を確保するなど、環境の整備をし、どの子も探究活動に関われる手立てを考えていく。

○探究的な学びに向かうための手立て

カリキュラム・マネジメント(※後述)

○協働的な課題解決に向かうための手立て

自分の考えや思いを一人ひとりがもつ

グループ活動での相談や共同作業を行う必要が予想される。グループ活動を通して子ども一人ひとりが自分の思いや願いをもち、表現することができるように、各グループに一人教師がファシリテーターとして活動していく。試作を繰り返す中で、探究するにあたり「どうすればよいだろう」「何が必要だろう」と、課題を見付け、さらに高みをめざすための話し合いが活発になると考える。

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される子どもの姿
①	人間関係・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の子ども同士で、目標の相談をしている。 ・目標に向かって、作業を分担している。 ・学校主事、材木屋等への質問を積極的にしている。 ・他グループと情報共有している。 ・それぞれの材の魅力、他グループに発信している。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作り方等を決定している。 ・中庭の魅力発信に意欲的になっている。 ・学校主事、材木屋等への質問等を積極的にしている。 ・緊張場面でもどのように関わればよいか考え行動している。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や活動結果から、何を目標にすべきか考えている。 ・得た情報から、具体的な取り組みを考えている。 ・学校主事、材木屋等から聞いた話を適切にまとめている。 ・自分達のグループの魅力発信の計画を具体的に立てている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動で自分の役割を見つけている。 ・グループでの探究活動が、将来に役立つと理解している。 (振り返り等) ・外部からのアドバイスを受け、改善策を考えている。

6 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス

世田谷区では、幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通した指導改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び 4つのプロセス	予想される子どもの姿
1	課題を見出し、把握している	<ul style="list-style-type: none"> ・中庭をみんなが楽しく遊べる場所にするために、何をすべきか考えている。 ・作る物に対して様々なアドバイスをもらい、今後何をすべきか考えている。 ・相手が何を求めているかを知り、何をすべきか考えている。 ・他のグループに、自分たちが作った物の魅力を広めるために、何をすべきか考えている。
2	課題解決の方法を考えている	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し試作することで、よりよい物を作り上げることをめざす。 ・学校主事や材木屋さんの話を聞き、自分たちの活動に生かす。 ・どんな方法で紹介すれば自分たちが作った物の魅力が伝わるか考えている。
3	協働して学んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが作る物を、意見を交わしながら試行錯誤して作っている。 ・学校主事や材木屋さんが協力してくれるありがたみを感じながら作り上げている。 ・自分たちが作りたい物を様々なやり方を試し、協力して作り上げている。 ・作った物の魅力を伝えるための方法を協力して考え、発信ツールを作成している。
4	学びを振り返り、次につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・試作した後、今後どのように学習を進めていくか考える。 ・成功や失敗を記録し、さらによくする方法を考える。 ・学校主事や材木屋さんに話を聞いた後、その情報をどのように活用するか考える。 ・この経験を、次年度どのように生かしていくか考える。

7 単元について(単元計画・評価の観点) ※後述

8 本時の展開 ※別紙本時案参照